

令和3年3月30日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 長崎県長崎市尾上町3-1  
管理機関名 長崎県教育委員会  
代表者名 教育長 池松 誠二

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和2年5月25日（契約締結日）～ 令和3年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名 長崎県立松浦高等学校  
学校長名 小野下 和宏  
類型 地域魅力化型

#### 3 研究開発名

松浦高校『まつナビ・プロジェクト』

#### 4 研究開発概要

長崎県立松浦高校と松浦市が協働で取り組んできた2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、生徒の課題解決能力を高めること等を目指した、3年間の連続性のある「まつナビ・プロジェクト」に進化させる。次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し、研究開発を行う。

Ⅰ 地域を愛し大切にす姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発

Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

#### 5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- |             |        |   |                 |
|-------------|--------|---|-----------------|
| ・学校設定教科・科目  | 開設している | ・ | 開設していない（R3年度開設） |
| ・教育課程の特例の活用 | 活用している | ・ | 活用していない         |

## 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
佐々木龍二	長崎大学サテライトオフィス松浦・コーディネーター	学識経験者
吉本 諭	長崎県立大学准教授	学識経験者
加藤 久雄	長崎ウエスレヤン大学教授	学識経験者
川浪 剛人	自営業（前まつうら創生推進室長）	地域住民代表
山口 正隆	県企画部政策企画課 企画監	関係行政機関職員

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
松浦市	市長 友田 吉 泰
松浦市議会	議長 久枝 邦彦
松浦市教育委員会	教育長 今西 誠司
松浦市小中学校校長会	会長 大内 康仁
松浦市商工会議所	会頭 稲沢 文員
松浦高校PTA	会長 反田 隆二
松浦高校同窓会	会長 藤田 英敏
長崎大学教育開発推進機構生涯教育センター	センター長 中村 典生
長崎県立大学地域連携センター	センター長 笠原 敏彦
エミネントスラックス株式会社	社長 前田 周二
福岡カタリバ（オブザーバー）	理事 原水 敦
長崎県教育庁高校教育課	課長 狩野 博臣
長崎県立松浦高等学校	校長 小野下 和宏

## 8 カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	井手 弘人	長崎大学教育学部准教授	②
海外交流アドバイザー	—	—	—
地域協働学習実施支援員	中上 徹	日本教育公務員弘済会長崎支部	②

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①運営指導委員会開催				○					○			○
②コンソーシアム会議開催			○	○					○			○
③学校訪問指導（生徒発表会）				○					○			

④研究指定校等に 係る研究報告会												○	
---------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

(2) 実績の説明

- ① 5名の運営指導委員を人選し、年3回の会議を実施。
- ② コンソーシアム構成機関の代表によるコンソーシアム会議を開催し、指定校との協力体制について確認。
- ③ 指定校における中間発表会、課題研究発表会（松浦高校1年生59名、2年生97名が参加）を参観し、その後、連携機関、学校の管理職・担当者と協議。
- ④ 令和2年度研究指定等に係る研究報告会（オンライン）にて、取組状況の報告及び研究協議。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目		実施日程													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1学年	㊸地域素材を活かした授業実践						随時実施								
	㊹フィールドワークを含む課題研究活動に関する技能習得			2回											
	㊺松浦市内バスツアー				1回		1回	1回	1回	1回					
	㊻研究テーマ設定											2回	2回	3回	
2学年	㊼研究テーマ設定	1回	1回												
	㊽中間発表及び振り返り			2回	2回										
	㊾フィールドワーク			1回	1回	1回		1回							
	㊿本発表・松浦市議会発表及び振り返り							1回	3回	4回	1回				
3学年	㊻2年次の研究成果に関するレポート作成・実践		1回	1回	1回					1回					
	㊼校内発表における提案事項の校外実践		1回												
	㊽小・中学校等における実践発表					1回							3回		

(2) 実績の説明

- ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容（類型の趣旨に応じた取組）について  
 類型（地域魅力化型）の趣旨を踏まえ、地域ならではの新しい価値を創造する人材として不可欠となる、地域を大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目的とした、高校3年間をつなぐ地域課題解決型学習を進めた。

なお、令和2年度の研究開発単位毎の活動目標を以下のように設定し、研究開発を行った。

〈研究開発単位Ⅰ〉

生徒たちの「地域を愛し大切にする姿勢と課題解決能力」を育成するため、高校3年間をつないだ地域課題解決型学習を進める。

〈研究開発単位Ⅱ〉

地域課題解決型学習を組織的に支援する体制を新たに立ち上げると共に、具体的な研究支援を連携して進める。

### 1 学年 (㉑～㉒)

「地域ならではの課題」についての基礎的な知識や地域課題解決型学習を進めるための技能等を身に付けるために校内外での学習を行った。また、次年度に向けた課題研究テーマ設定に取り組んだ。

- ・㉑では、地域素材の活用に加えて、まっナビ・プロジェクト（MNP）で育成を図る資質・能力（「コミュニケーション力」、「課題発見力・テーマ設定力」、「論理的思考力」）の育成を目的とした授業の準備を9月以降全学年で進め、11月に全教職員による公開授業及び意見交換を行った。〈開発単位Ⅰ〉

#### 【授業実践例】

教科・科目 実施日	授業内容	MNPとリンクする教科の授業実践における具体的な目標
国語総合 11月10日	松浦にまつわる民話と別の地方の民話を比較し、相違点や類似点を考えることができるか。	地域素材を活用して具体的な課題を見つけることができるようになる。
数学 11月11日	設定した課題に対して、現状と与えられた条件を把握し、そこから解決のための見通しを立てられるか。	論理的な思考で課題に取り組むことができるようになる。
英語 11月20日	SDGsに関する課題を、ブレインストーミングを通して考え、問いを考えて英語で表現できるか。	課題解決のための問いを設定することができるようになる。
地理B 11月20日	松浦市の水産業のグラフを見て、そこから問題（問い）を作成することができるか。	地域素材を活用して具体的な課題を見つけることができるようになる。

- ・㉒では、1年生がまっナビ・プロジェクトの概要やその進め方を知ることを目的として、6月9日に校長による講義を行い、6月15日には、松浦市職員によるKJ法等を使った基礎的な課題研究の手法を学ぶ研修会を実施した。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・㉑では、松浦市の現状を知り、歴史等についての情報収集を行うことを目的として、生徒が企画した「陸、水、街、島」の4つルートに分かれてバスツアーを実施し、見学した内容等をまとめ、発表会を行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

#### 【ツアー内容】

ルート名	見 学 先
陸	風力発電所 → JR九州ファーム → 世知原炭鉱資料館 等
水	志佐川河畔公園 → 笛吹ダム → 柚木川内キャンプ場 → 市役所水産課講話
街	平戸市街地 → 松浦市街地
島	鷹島 → 松浦市立埋蔵文化センター → モンゴル村 → 石材店見学

- ・㉑では、地域課題の解決に向けて、「自分ごと」として課題研究を進めることを目的として、これまでの学習を踏まえ、カリキュラム開発等専門家の助言及びコンソーシアムの支

援を受けるなどして、次年度の課題研究テーマの設定及び研究班の編成を進めた。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

## 2 学年 (㉔～㉖)

設定したテーマに基づき、コンソーシアムの協力を得るなどして、フィールドワークを含む課題研究を計画的に進め、課題研究発表会や市議会において課題の解決策等について提言を行った。

- ・㉔では、課題研究の方向性等について検証することを目的として、進捗状況等について発表し、コンソーシアム関係者等から助言を受けた。生徒は、振り返りを行うとともに、以後の進め方について検討した。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・㉕では、今後の課題研究の充実に向けた情報の収集とコミュニケーション力の育成等を目的として、生徒が事業所等の見学や体験、インタビューなどを計画し、フィールドワークを行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・㉖では、生徒がプレゼンテーション力や表現力などの発信力を身に付けるとともに、課題研究の内容等について松浦高校1年生及び松浦市内の小中学校の教職員等と共有することを目的として、課題研究の成果や課題、実践内容等についての発表会を松浦市文化会館において実施した。また、松浦市の施策検討の際に生徒の提言を参考としていただくことを目的として、代表班が市議会議場において、課題研究の内容等を発表し、市議会議員からの質問に対して答弁した。

各種発表会終了後、研究班毎に1年間の活動を振り返り、次年度に個人として行う課題研究に関するレポート作成の準備を進めた。なお、生徒の課題研究のより一層の充実を図るために、課題研究発表会の前に鹿児島県立大島北高等学校とのリモートによる意見交換や相互の発表会の動画の交換を行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

### 【発表テーマ例】

- ・農業っていいね！！
- ・We love トラフグ
- ・SNSでLevel Up!
- ・カジュアルキャンプ in 松浦 ～満足するような思い出をつくろう～
- ・空き家を利用して便利でにぎやかな町にしよう

## 3 学年 (㉗～㉙)

2学年の時に行った課題研究を個人研究としてまとめるとともに、課題研究の内容について地元小中学生にプレゼンテーションし、「ふるさと学習」の成果の共有を図るなどの地域貢献活動に取り組んだ。

- ・㉗では、「自分と将来」について考えるとともに、ふるさとへの思いを大学進学や就職など実際の進路実現に反映させることを目的として、キャリアデザインを目的とする本校独自の「ポートフォリオ」に3年間の課題研究の成果を個人レポートとしてまとめた。なお、生徒の課題研究の充実につなげるために、本校図書館で選書を行い、課題研究（まっナビ・プロジェクト）コーナーを設置した。〈開発単位Ⅰ〉
- ・㉘では、前年度の課題研究において提案していた、地域の高齢者の団体と協働で作成した「幼児用木製遊具」を松浦市へ寄贈し、松浦市市民福祉総合プラザに設置した。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・㉙では、小中学校との連続性のある、地域に関する学びを構築することを目的として、コ

ンソーシアムの支援を受けて、市内小学3～6年生及び中学2、3年生の生徒に対して、これまでの地域課題解決学習の成果の発表を行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

総合的な探究の時間（毎週火曜日7校時）を中心に、地域との協働による探究的な学びを進めた。校外活動を行う場合には、授業の振替等を行うことによって、連続する活動時間を設定した。各教科・科目においては、「まつナビ・プロジェクト」との相互補完関係を構築することを目指し、地域素材の活用を含む、設定した資質能力の育成を図るための授業実践に取り組んだ。

なお、学校設定教科・科目については、令和3年度からの実施に向け、本年度の研究開発を進めつつ内容の詳細な検討を行い、長崎県教育委員会に実施申請書を提出した。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

地域との協働による探究的な学びである「まつナビ・プロジェクト」と各教科・科目の授業との相互補完関係を構築するため、本プロジェクトで育成を図る資質・能力として、「課題発見力（テーマ設定力）」、「論理的思考力」、「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」を設定した。これらの資質・能力の育成を図るための実践を各教科・科目の授業に組み込むことで、各科目における学習を相互に関連させ、教科横断的な学習とすることを目指した。

令和2年11月の1か月間、取組の充実を図ることを目的として、授業の成果と課題を共有する「公開授業月間」を設定した。全教職員が公開授業を実施し、授業後に授業者と参観者が意見交換を行った。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

「まつナビ・プロジェクト」を中心に据え、本校の教育活動全般において育成を図る資質能力を「課題発見力・テーマ設定力」「論理的思考力」「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」と設定した上で、校内外のメンバーで構成される組織の協力を得ながら、地域との協働による探究的な学びの一層の充実を図ることを目的とするカリキュラム・マネジメントを推進した。

校内においては、各学年・分掌副主任で組織する「プロジェクトチーム」が中心となって、課題研究活動を含む校内外の教育活動全般の企画・実施・評価について検討した。また、松浦市政策企画課を加えた「ワーキンググループ」において、実施計画等について再検討の後、コンソーシアムに「まつナビ・プロジェクト」における活動内容等について報告し、今後の課題研究の進め方等についての協議を行った。また、運営指導委員会による指導助言等を踏まえ、「プロジェクトチーム」が中心となって、修正案を検討し、以後の計画等に反映させることで、生徒の深い学びの実現を目指してきた。

なお、「まつナビ・プロジェクト」の各取組については、「ワーキンググループ」での振り返りをこまめに行い、その改善を図った。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

年度当初に本事業についての職員全体研修を2回行った。1回目は研究開発の概要説明、2回目は質疑応答とし、全教職員が研究開発に参画することを目指した。

全教職員を生徒の課題研究のファシリテーターに位置付け、松浦市職員と協働して生徒の支援に当たることとした。生徒の支援にあたっては、「プロジェクトチーム」が中心となって事前に活動内容や方法について担当職員間で共有を図り、事後にはカリキュラム開発等専門家による助言等を踏まえた振り返りを行った。

また、フィールドワークをはじめとする地域との協働活動においては、地域協働学習実施支援員がコンソーシアム等との連携を図りながら、教職員の活動を支援した。

⑥カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員共に、臨時休業等により課題研究が実施できなかった4～5月を除き、月に2～4回来校し、次のような活動を行うことで学校内外における課題研究を継続的に支援した。

カリキュラム開発等専門家は、生徒課題研究への指導助言、課題研究発表会やバスツアー等に向けた生徒の活動でファシリテーターをつとめた教職員への助言等を行った。

地域協働学習実施支援員は、生徒及び教職員の活動をサポートするために、校内での打ち合わせを行った上で、コンソーシアムを含む学校外の課題研究の支援者との連絡調整を行った。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

月に1～2回程度、「プロジェクトチーム」やカリキュラム開発等専門家等を含む「ワーキンググループ」のメンバーによる意見交換会を校長主宰で開催し、研究開発の進捗状況の確認等を行うとともに、課題研究全般の成果や課題等について検証し、その改善を図った。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

コンソーシアムの構成メンバーである松浦市の職員が庁内研修の一環として、生徒の課題研究のファシリテーターとなり、本校教職員とともに生徒の支援に当たっている。

第2回会議（令和2年7月）では、松浦市長を座長に選出し、コンソーシアムの役割や支援の在り方について協議を行い、生徒の主体的な活動を支援していくことが承認された。

第3回会議（令和2年12月）では、コンソーシアム全体として課題研究の支援活動を行っていくために、コンソーシアム担当者会を設置することが決定された。なお、第4回会議（令和3年3月）において、令和2年度の活動の総括及び次年度の取組について検討を行った。

⑨運営指導委員会等、取り組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員会を3回開催し、事業計画の承認、生徒の課題研究発表を踏まえた事業の中間総括及び令和2年度事業全体の総括と次年度の課題研究計画に関する指導助言がなされた。

具体的には、課題研究中間発表に対して、生徒たちの主体性を感じた部分はあったが、試行錯誤を続けることによる今後の生徒の成長を期待する意見等が提示された。また、課題研究発表会の成果として、コロナ禍により十分な活動時間の確保が難しい中、課題研究を深めた班が多くあったことがあげられた。課題としては、課題研究が提言にとどまり、実践に至った班が少なかったとの意見が提示された。

#### ⑩成果の普及方法・実績について

- ・「まっナビ・プロジェクト（MNP）だより」発行（5回発行）  
生徒の活動状況を伝えるために、松浦市内外の小・中学校に配布したり、本校ホームページ上に掲載したりした。
- ・課題研究発表会（令和2年12月15日実施）  
松浦市文化会館で実施。生徒が地域課題の解決を目指して研究・実践した内容について発表した。1・3年生の課題研究の概要報告、2年生11班の課題研究発表を実施した。コロナ禍を踏まえ、参観者は、市内小中学校教職員（各校2名まで）、コンソーシアム関係者に限定した。
- ・松浦市議会議場発表（令和2年12月24日実施）  
YouTubeにて、生徒発表及び質疑応答をライブ配信した。
- ・生徒の課題研究の内容等について、長崎県立高等学校教職員との共有（令和3年1月）  
Microsoft Teamsにて、課題研究発表会における生徒発表の動画を配信した。
- ・他都道府県の研究指定校等との共有（令和3年1月）  
課題研究発表会における生徒発表の動画を編集して郵送した。
- ・長崎県教育委員会主催による「令和2年度研究指定等に係る研究報告会」での発表及び研究協議（令和3年2月18日）  
全県立高等学校研究主任等を対象としたリモートによる研究開発内容の報告及び意見交換を行い、研究開発の成果等の普及を進めた。

### 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

#### (1) 評価方法

地域課題解決型学習の成果と課題を明らかにするため、以下のような方法でアンケートを実施し、分析を行った。

- ①対象 全校生徒253名（1年96名、2年58名、3年99名） ※2回目調査
- ②時期 1回目 令和2年4月（令和2年度の地域課題解決型学習実施前）  
2回目 令和2年12月（課題研究発表会実施後）

#### (2) 成果目標

- ①地域の課題を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したいと思う生徒の割合（今年度目標：75%）

未達成。4月調査で全生徒の24.4%、12月調査で全生徒の34.4%であった。

将来松浦市に貢献したいと考える生徒の割合が、地域課題解決型学習を経験するなどして、10ポイント程度高まったことは成果と考えられるが、今年度目標には届いていない。

次年度の研究開発において、生徒が課題研究を「自分ごと」として進めることができるような取組を検討・実施する必要がある。



②高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職する生徒の割合（今年度目標：70%）

達成。令和2年度、本校から就職した生徒に占める、地元就職（長崎県内企業等）した割合は、83.3%であった。

地域課題解決型学習の経験などによる、松浦市をはじめとする県内の企業に就職し、地元貢献したいとの意識の高まりが感じられる。

③高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したいと考える生徒の割合（今年度目標：50%）

未達成。4月調査では全校生徒の25.3%、12月調査では全校生徒の38.3%であった。

大学進学後にふるさとでのUターン就職を考えている生徒の割合については、今年度目標は達成できなかった。しかし、地域課題解決型学習を経験するなどして、Uターンを考える生徒が増加し、大学進学希望者の40%程度が「地元志向」となったことは、成果であると考えられる。

④大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学した生徒の割合（今年度目標：30%）

達成。今年度は44.8%であった。地域活性化に関連の深い経済系の学部・学科に進学した生徒が多かった。

地域課題解決型学習と自らのキャリアデザインとを関連させることができるような取組について検討し、さらに実践を深めていく必要がある。

(3) 地域人材を育成する高校としての活動指標

①学校外での活動回数（今年度目標：35回）

未達成。今年度は26回にとどまった。

コロナ禍により、4～5月が臨時休業となったことに加え、地域課題解決型学習に関連する企業や組織等において、感染防止対策を進めていたことから、校外での課題研究を実施することが難しかった。

②先進校としての研究発表回数（今年度目標：3回）

達成。生徒の課題研究発表としては、10月文化祭での中間発表、12月松浦市文化会館での課題研究発表、松浦市議会発表を実施した。また、長崎県教育委員会主催による「令和2年度研究指定等に係る研究報告会」での発表をあわせ、計4回実施した。

③2年次の「まつナビ」の中で、フィールドワークにおいて地元の方にヒアリング・インタビューする生徒の割合（今年度目標：60%）

達成。フィールドワークに参加した2学年生徒の64.4%がヒアリング・インタビューを行い、その内容を課題研究に反映させた。

④高校3年間で、地域への貢献活動・まちゼミ・地域でのボランティア活動に参加する生徒の割合（今年度目標：90%）

達成。今年度の地域におけるボランティア活動参加率は98.8%であった。

(4) 地域人材を育成する地域としての活動指標

①「まつナビ・プロジェクト」に関わった外部人材の人数（今年度目標：140人）

達成。生徒の班別課題研究におけるファシリテーターとしての支援やフィールドワークにおいて現地で支援していただくなど、今年度は175人の学校外の方々が「まつナビ・プロジェクト」に関わった。

②コンソーシアムの活動回数（今年度目標：3回）

達成。今年度は6月、7月、12月、3月の4回開催し、生徒の地域課題解決型学習に関する意見交換を進めると共に、具体的な課題研究への支援の在り方について検討を進めた。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 研究開発単位Ⅰについて

①課題：地域課題解決に向けて取り組もうとする意欲の高まり（主体性）が十分でなかった。

改善点：「自分ごと」として「楽しんで取り組む」課題研究としていく。

・学校設定科目（1・2年）及び総合的な探究の時間（1～3年）を使った課題研究を進める。

・キャリアデザインを踏まえた、課題研究テーマ設定を計画的に行う。（1年）

②課題：PC教室以外でのICTの活用が難しく、Webの活用やネットワークを介した協働が進まなかった。

改善点：次年度導入予定の「生徒一人一台端末」を駆使した課題研究を進める。県内外の高校や大学等とのネットワークを構築し、課題研究に関する生徒の視野を拡大していく。

③課題：地域課題解決策の提案にとどまり、「高校生らしい実践」を進めた研究班が少なかった。

改善点：見通し（具体的な活動計画）のある課題研究とできるような支援を行う。

・実践を視野に入れた、班別の「活動計画」を立案する。

・「活動計画」及び進捗状況をチームとして検証・改善することによって、「試行錯誤」を恐れない姿勢を身につける。

④課題：「まっナビ・プロジェクト」で育成を目指す資質・能力を踏まえた各教科における授業実践の一層の充実を図る必要がある。

改善点：校内研修を計画的に実施すると共に、校内公開授業月間の在り方の改善を図る

(2) 研究開発単位Ⅱについて

①課題：コンソーシアムとの協働を一層進める必要がある。

改善点：「地域を大切にする姿勢」の育成を組織的に進めるため、生徒の多様な課題研究への関与が可能となるような体制を構築し、継続的な支援を進める。

・小中学校の児童生徒との計画的な交流を進めるため、地元教育委員会及び小中学校校長会との協働を推進する。

・生徒のロールモデルとなり得る、地域の「素敵な大人」との交流を進めることができるよう、関係団体との連携を強める。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	095-894-3354
氏名	中村陽介	FAX	095-824-5965
職名	指導主事	e-mail	yosuke.nakamura@pref.nagasaki.lg.jp